

●第4回琉球大学・松浦市鷹島神崎遺跡発掘調査連携協議会を開催しました

平成29年8月26日（土）、福岡県太宰府市にある九州国立博物館において、本学と松浦市による「第4回琉球大学・松浦市鷹島神崎遺跡発掘調査連携協議会」（協議会長：西田 本学研究・企画担当理事）を開催しました。

本学と松浦市は、平成24年6月に鷹島神崎遺跡の調査等を連携して行うために「鷹島神崎遺跡に関する連携協定」を締結しており、密接な連携協力のもと調査研究に取り組んでいます。

「鷹島神崎遺跡」は、平成24年3月に文部科学大臣から松浦市鷹島沖が、鎌倉時代の蒙古襲来（元寇）に関わる古戦場として認められ、海底遺跡としては国内初の国史跡に指定されました。本学法文学部池田教授の水中考古学手法によって、平成23年秋の元寇の沈没船発見に続き、平成27年には2隻目の沈没船が発見されました。

今回の連携協議会は、鷹島神崎遺跡の調査に係る本学及び松浦市の現況報告の後、長崎県松浦市にある本学水中文化遺産研究施設の利用状況、遺物の保存処理に係る事業計画、水中考古学の周知・普及について、意見交換がなされました。また、本学と松浦市との連携にあたっての役割分担を記載したロードマップについて、内容を充実させ、これに基づき、両者の連携をさらに深化していくことを確認しました。

午後には、同博物館にて特別展示されている旧石器時代から明治時代にまでおよぶ各時代の水中遺跡に係る出土品等を通して、水中考古学の最前線を観覧しました。

第4回連携協議会の様子

